

平成 22 年度 第 1 回下水道施設のストックマネジメント手法に関する検討委員会 議 事 録

日 時：平成 22 年 9 月 6 日（月） 13：00～15：00

出席者：滝沢委員長（東京大学）、水谷委員（仙台市）、柳委員（東京都）、井深代理委員（横浜市）、薩川委員（静岡市）、小野田委員（名古屋市）、二ノ形委員（大阪市）、山上委員（福岡市）、三宅代理委員（日本下水道事業団）、田中委員（管路協）、松尾委員（施設協）、横田氏（特別出席：国土技術政策総合研究所下水道研究室長）

事務局：山下総括主任研究員、鈴木主任研究員、金盛研究員（下水道機構）

- 議 題：1. 開会
2. 国土交通省挨拶
3. 委員長挨拶
4. 委員紹介
5. 資料の確認
6. 議題
 (1) 昨年度委員会の概要について
 (2) 目指す手引きの姿と今年度審議内容について
 (3) 国内のストックマネジメントへの取り組み状況について
7. 閉会

配布資料：資料 1. 下水道施設のストックマネジメント手法に関する検討委員会名簿
資料 2. 下水道施設のストックマネジメント手法に関する検討委員会設置趣旨
資料 3. 昨年度委員会の概要
資料 4. 手引き(案)の位置づけ
資料 5. 下水道事業におけるストックマネジメントに関する手引き(案)の検討方針
資料 6. 国内ストックマネジメントへの取り組み状況

議 事：

委員長挨拶：本委員会は、昨年に引き続き 2 年目となるが、昨年度は、ストックマネジメントの基礎的なところから内容を固めてきている。今年度は、昨年度の審議傾向を踏まえてとりまとめていきたい。

岡久課長：平成 21 年度末の整備率が約 74% となり、維持管理の時代になっている。新成長戦略でも社会資本のストックについて戦略的な維持管理が重要な取り組みと考えている。平成 20 年度に創設した下水道長寿命化支援制度は、ミクロマネジメントの支援制度である。ストックマネジメントは、施設全体を捕まえたマクロマネジメントとして今後進めることが重要である。さらにその先には財政計画を踏まえたアセットマネジメントについて対応して行かなければならないと考えている。今年度の委員会では、その具体的な手法について昨年度から引き続き議論して頂きたい。

(1) 昨年度委員会の概要について【資料 3】

事務局 昨年度第 2 回委員会では、資料 3 の P. 6 に示す投資計画によって改築更新量を決めてから点検・調査計画を策定する流れの管路施設のストックマネジメント実施フロ

一を提示したが、供用開始後間もなく当面は改築よりも維持管理が重要な自治体には適用できない。これに対応できるよう P.5 に示すフローを事務局案として提示する。このフローについて意見をいただきたい。

(意見無し)

滝沢委員長 P.5 に示すフローについて意見があれば、後日事務局に連絡して頂きたい。

(2) 目指す手引きの姿と今年度審議内容について【資料4、資料5】

- 水谷委員 ①施設の保安全管理計画や維持管理計画が明確にされていない。位置付けを検討してほしい。
- ②ストックマネジメントを実践すれば、そこで得られるデータを活用することで、効率的に長寿命化計画を策定できるといったような、長寿命化計画とストックマネジメントの関係性が分かるようになれば、自治体へのストックマネジメント導入も進むと考えられるので、その関係性を示すことが望まれる。
- ③ISO や JIS 化の動向についても留意し、手引きとの関係性の説明が必要である。
- 事務局 ①今年度は保全や維持管理についても記述を充実させていく。点検・調査計画の節に盛り込んでいくとともに、「点検・調査計画」という節のタイトルも変更する考えである。
- ②事業体にとって関心の高い長寿命化計画とストックマネジメントの関係について記述する。
- ③JIS 化等については、動向を調査し、現時点で記述できる範囲を検討する。
- 小野田委員 ①委員会では、局内で議論した結果を発言したいため、委員会資料は事前に配布していただきたい。
- ②手引き(案)の骨子だけでは、全体像が分からないので、現時点の手引き(案)を送って頂きたい。
- 事務局 ①次回から可能な限り事前に資料を送付する。
- ②現時点の手引き(案)を精査し、次回委員会までに送付する。
- 田中委員 ①ストックマネジメントの観点からは、「老朽化」ではなく「劣化」という表現が適しているのではないかと。初期故障や製品の規格や施工の状態、設計の考え等によって施設がダメージを受けているので、「老朽化」ではなく「劣化」で統一して表現するのが適切である。
- ②ストックマネジメントでは、予防保全だけでなく、冗長性や影響の大きさなどを考慮して、プロアクティブ(事前対策)とリアクティブ(事後対策)を使い分ける考え方が重要ではないかと。
- ③包括民間委託、PFI や PPP は、ストックマネジメントとは少し概念が異なるのではないかと。

- 事務局 ①ご指摘のとおり「劣化」が表現として適切である。用語の定義で整理する。
- ②ご意見の通り、何でも予防保全という考えではなく、予防保全と事後保全の使い分けや、予防保全でも、状態監視保全と時間計画保全の使い分けることが重要であることを示したい。
- ③包括民間委託、PFI や PPP は、下水道事業経営手法の一例としての紹介と考えている。
- 三宅委員 今回のストックマネジメントの対象範囲として建築が対象とならない経緯を教えてください。（手法詳細等については別を参照するなり手引きに詳細に記載しなくても良いかもしれませんが、扱いとしては一体として捉えるべきではないか。）
- 事務局 今回作成する手引きを、下水処理の根幹となる土木施設や設備を中心に記述するということである。建築がストックマネジメントの対象外という意味ではない。建築については他の手引き等が充実している。
- 滝沢委員長 本手引きに、建築施設について既存手引きなどを参照するといった書き込み等は可能であるか。
- 事務局 建築に関わらず、既存手引きへの参照が生じる場合は、参考図書等として書き込むようまとめていく。
- 松尾委員 ①昨年度、本協会では、設備を構成する部品ごとの劣化や部品供給年限に関する資料提出を求められたことが一部であった。今回の手引きを作成するに当たっては、今後そういった負荷がかからないような実用的な整理方法となるようお願いしたい。
- ②施設管理業協会は今後行われるヒアリングについて協力していく。
- 滝沢委員長 ①資料４及び５の内容で気付いた点については、各委員が直接、事務局へメール連絡していただきたい。
- ②寄せられた意見についての対応は、事務局で整理し次回委員会で報告する。

(3) 国内のストックマネジメントへの取り組み状況について【資料６】

- 事務局 今回報告された各自治体のストックマネジメントへの取り組み状況を手引きの中に盛り込むに当たっては、必要に応じて事務局で詳細にヒアリング等の調査をし、内容を精査していく。

今後の予定

- ・第２回委員会は、１２月１日（水）１３：００～１５：３０に開催を予定する。

以上